

## 1 旧オープニング

### 1B 宇宙空間

重く息を潜めて、宇宙艦が進む。それは、一艦ではない。恐ろしい数の船が、空間にうごめいている。ア・バオア・クーを目前にした、連邦艦隊の音である。

### 2 ア・バオア・クー内。作戦指揮所

レーザーガンの発砲が、その単調なリズムを切り裂いた。

ギレン「オ、…アアア…」

人（ギレン）の漂い、壁に当たる音。（手前をよぎる）

N 「一発の銃弾が、命運を決した『ア・バオア・クー』攻防戦…。宇宙世紀 0079、12 月 31 日。」

### 3 ア・バオア・クー、外

ア・バオア・クーの空間戦闘。次々と起こる爆発音のなか、飛び交うモビルスーツのエンジン音。そして、S/N の悪いパイロットたちの交信。

### 4 グワデン・ブリッジ

デラーズ「何！、ギレン総帥が戦死されたと！？」

兵 1 「はっ、ア・バオア・クーは全権、キシリア閣下へ移行しました。」

デラーズ「謀ったな、キシリア…」

### 5 ア・バオア・クーの外

壮大なア・バオア・クーの爆発。

N 「宇宙世紀 0080、1 月 1 日、地球連邦政府とジオン共和国の間に終戦協定が結ばれた。その 2 週間後のカラマ・ポイント…、そこに、逃亡したジオン艦隊の群れはあった。」

### 6 カラマ・ポイント・ある艦内

遠くに、混乱したざわめき。時折、怒号さえ混じっている。

☆以下、佐官クラスらしいジオン士官達の会話。

士官 A 「サイド 3 での決戦も行なわず、何が終戦だ！我々はまだ、十分な戦力を温存している！！」

士官 B 「甘い！連邦の力を冷静に判断できんようでは、やる前から結果は見えている。」

士官 A 「貴様！それでも、公国軍士官か！」

士官 C 「再起を期すのだ！今はマハラジャ・カーンのもとに糾合して！！」

新たなざわめきが拉がる。

士官 A 「おい、シーマ艦隊が離脱していく。」

士官 D 「ふん、身勝手なやつらだ。ジオンの面汚しめ。」

## 7 宇宙空間

遠ざかるシーマ艦隊。

## 8 リリー・マルレーンのブリッジ

コッセル「各艦に信号！単縦陣形を組み離脱する。第 2 戦速！」

要員 「(復唱する) 第 2 戦速！」

変速ベルが響く。

シーマ「行くも地獄、行かぬも地獄…。アクシズなどの辺境の地に、何があるんだい。お宝は、この地球圏にいてこそだぁね。」

N 「この日、彼らの運命は二つに引き裂かれた。大多数はアクシズへ…。そして、地球圏に居残った一部の戦力は、エギーユ・デラーズが率いた。」

## 9 グワデン・ブリッジ

士官「閣下、ガトー大尉以下、モビルスーツ搭乗員は、月とサイド 6 に潜伏を終えたとの報告であります。」

デラーズ「うむ、彼らには、随分と無理を申したからな。暗礁宙域に我々の新たなる港を

築くまでのしばし、骨休めもよかろう…。」

## 10 宇宙空間

ゆく艦隊。

N「宇宙世紀 0081、8月、残党軍は、その組織の再編を完了し、ゲリラ的活動を開始した。『デラーズ・フリート』である…。」

## 11 デラーズ・フリート。謁見の間

響く足音。重く開く扉。

ガトー「アナベル・ガトー少佐、ただいま戦線に復帰いたします！」

デラーズ「よくぞ、戻ってきてくれた。月はどうであったか。

ガトー「は、私にはどうやら、月の重力は合いかねるようで…。」

デラーズ「だが、ガトーよ。まだ、焦るでないぞ。そのうち、存分に…。」

ガトー「は…。」

## 12 時が流れるように、いろいろな声が、響き通り過ぎる。

ガトー「『茨の園』…。我々が、ここを後にするのはいつのことか…。」

デラーズ「(いらいらと)地球連邦政府による地球圏の安定化…。決起は急がねばならん…。

しかも、惰眠をむさぼる宇宙(そら)の民の眼を見開かせるものが。」

ガトー「閣下！もし、我々が地下に潜るのならば、私は指揮官として必要ありますまい！

どうぞ、おっしゃって下さい。ただ一言、『いらぬ』と…。」

デラーズ「ふふふふ、これではどうかな？」

ガトー「む!？これは！ …ガンダム開発許画！！」

士官 A 「閣下、電文であります！待ちに待った…。」

士官 B 「ジオン統一時、8月 11日、ハマーン・カーン、ミネバ様の摂政として立つ。広く耳を傾ける用意あり！」

ガトー「(低くしみじみと)我々は…、3年、待ったのだ…。」

### 13 朝霧のオーストラリア

ビームサーベルの交わる干渉音が響く。

コウ 「ウウウ、なぜ、2号機を盗んだ！！」

ガトー「もう、貴様などに話す舌を持たん！戦う意味さえ、解せぬ男に！！」

### 14 新エンディング

### 15 アルビオン・艦内のある通路(重力ブロックです)

ニナ N 「宇宙歴 0083、11月5日、強襲揚陸艦アルビオンは、月のフォン・ブラウンを後にして、ソロモン海に針路をとっていました。」

鑑内に機関音がこもって伝わっている。(F・I) ニナの乾いた足音がやってくる。

ニナ M 「機関部の振動が低く伝わってくるこの通路を、私はもう何度、歩いたことでしょうか。天井の赤色燈が通路全体を染め、このブロックは今、夜であることを教えてくれています。静かな眠りに抱かれた区画…。そういえば私も、この船に乗り込んで、朝を迎えたのは何度……。

民間の私が、このアルビオンと共に宇宙（そら）にいる。つい、この間までは、想像だにしていなかったことです。しかし私は…、確かに、この通路に足音を刻んでいる…。夜はその一瞬、私をシステムエンジニアとしての立場から解放してくれるのです。」

### 16 MSデッキ（無重力）

喧噪がドッと押し寄せて来た。何かを修理しているらしい工場の音。エアロックが開く音。注意を促す、断続的ブザー。整備兵が、キースのジムキャノンを送り出しているところである。

ジム・キャノンの足音。

ニナ「(怒鳴る) おはよう、モーラ/堪備の方はどう？」

モーラ「ハーイ！ ニナ。今、ちょうど、ねぼすけの…。」

カタパルト発進警告のブザー！

アナウンス「ジム・キャノン、第1種兵装・キース機、発進準備。整備第3班は退避せよ。左舷カタパルト、バニング機が発進する。」

頭上でカタパルトの射出音（ンゴゴゴーンと、こもって聞こえる）。続いて、エレベーターの上昇音。

モーラ「と、いうわけ。ウラキ少尉のフルバーニアンは、もう、宇宙（そら）に上がって待機しているわ。哨戒飛行の連中が出たら、すぐにテストを始められるようにね。」

ニナ「ククク「、コウらしいわね。別に、昨日のテストはフルバーニアンの機体自体の問題じゃないのに。」

モーラ「おや、そういう誰かさんも、早いお目覚めじゃないかしら？」

ニナ「そうかしら☆！」

ブザー！

アナウンス「左破カタパルト、続いてキース機が発進する。」

再び、頭上でカタパルトの射出音。

## 17 宇宙空間

ゆくバニング機と、続くキース機。

キース（通信）「おーす、コウ、お待たせ！じや、行ってくっかっなあ（くるからな）。」

来るガンダム・フルバーニアン。

コウ（通信）「眼は覚めたのか？頼むよ、相棒。」

キース（通信）「後でな！！アルビオンは任せたぜ！」

## 18 フルバーニアン・コクピット

コウ「(独り言) ふ、よく言うよ…。」

スコット（OFF）「ウラキ少尉、フルバーニアン。テスト開始時刻を繰り上げる。つまり、すぐ始める。よろしいか？」

コウ「ウラキ少尉、了解。スコット、みんな早起きらしいな。」

スコット（OFF）「こっちは、徹夜です！まだ、寝てません。本日の試験標的は、2時方向

距離 4 万の単独浮遊岩塊！」

コウ 「すでに、捕まえている。終わり。(ここより、独り言) よし、行くぞ。」

ズーンと高まってゆくエンジン音が、コクピットまで伝わってくる。

モード(飛行の)が変わったらしい、サインがポー、ポー、ポー。いよいよ、エンジン音は高まる。

コウ「V3 …、V4 …。」

## 19 宇宙空間

いよいよ高まったものが、一気に噴出して、ドーンと加速してゆく GP01-Fb。

## 20 フルバーニアン・コクピット

轟轟たるコクピット。

コウ 「600…650…700…」

ニナ(OFF)「コウ！回線をもらったわ。」

コウ「ニナ。」

ニナ(OFF)「予定通り、1300 で緊急回避ターンをしつつ、発射して。試作品なので、セーフティ解除信号が逆なのに注意。」

コウ「了解！現在のところ異常なし！！」

チッチッチと、レティクルの中に点滅。

速度はグングンと上がり続けて行く。

高まる機内音。

が、フッと遠のいて、

コウ M「今日のお相手は、ダダッコだ。ブラッシュ・ XBR-L-83d…。フォン・ブラウンで積み込まれた、新型の試作ビームライフルだ。ジェネレーター出力 4.8 メガワット…。普段、このガンダムが使用しているボウワ。(XBR-) M-82A とは比べものにならない出力だ。

アルビオンの直衛にまわしてもらっての、ガンダムのトライアルは、これで終わりなのだ。 …、こいつが、昨日も言うことを聞いてくれなかった…。」

ティイイイイ。レティクルの点滅は早まり、(映像としてはもう、フリッカー程度) 一つになっている。

猛烈な加速は、機体をカタカタと振動させ始めている。限界が近い。ウォンウォンウォン、と暴走族まがいの音。

「加速警告が出た。1100！…、1150…、目標視認、1250！…、NOW！！」

## 21 宇宙空間

接近したフルバーニアン of 轟音が、急ターンして、グッと奥へ行く刹那、ジュオオーンと、変な発射音。

## 22 フルバーニアン・コクピット

ズシーン、カタカタカタと、コクピットが振動。

コウ 「くっ！またか…。」